

くつ下を干しながら

手の訓練をかねて
洗たくものを干す
左手でピンチをひらき
ゆるる右手で、くつ下をはさんでいく
洗たくものを干していると
家族の生活がみえてくる

高校生の姉は、紺のハイソックス

中学生の部



大塚里美さん
県立二葉養護
学校中学部
2年

弓道部に入り、練習している
腕が痛いといながら
毎朝、さっそうとペダルをこいでいく
小学生の弟は陸上競技会の練習で
つかれて帰ってくる
ふと見ると
弟のくつ下には
穴がぼっこりあいている
それほど一生けん命がんばっている
弟の姿が、目に浮かんでくる
わたしには
部活も陸上競技会もない
でも
くつ下を干しながら
今日も家族を応援している

くも

物干し竿に傘をはって
蜘蛛は行ったり来たり
まるで空を自由に泳いでいるよう

ルノワールの空は
雲も空もきれいなうすいブルーと白だった
糸は全く見えなくて、行ったり来たり
空を自由に泳いでいるよう

蜘蛛は雲になりたかった

黒い体がピタリと止まる
やさしい風がそれを揺らす
器用にはられた網の目も一緒に揺れる

高校生の部



竹内香織さん
共愛学園高
3年

その瞬間
黒い体は
自らはったそれにしぼられ
ほんの数センチの
狭い世界に自分があると気がつく
それは
人が人を憎んだ日、
人が争いをはじめた日、
人が人の命を奪った日、
人が人の上になつた日、
爆弾が降ってきた日、
薬がまかれた日、
高いビルが崩れおちた日、
少女がお金に代わった日、
少年がマンホールで死んだ日、
その門の内側に入るために必死で走った日、
今も多くの人が飢えているこの時
蜘蛛は雲になりたかった
空に憧れて
そのうすいブルーに
とても悲しい夢をみた

社会へ目を向け 高いレベル

選考委員会終了後の記者会見
で、入賞作品の発表後、選考委
員を代表して、秋谷委員長から
講評がありました。その概要は
次のとおりです。

講評のあらまし

小学生、中学生、高校生であ
っても社会を構成する一員であ
るといつことを踏まえると、一
人の人間の精神形成の一つとし
て詩を考えることは重要なこと
です。そうした意味から、若い
芽のボエムが、六年間続いて実
施され、しかもこれほど多くの
作品が寄せられているというこ
と。その事実が大変意義深いこ
とであります。

特に、社会の出来事や毎日の



選考委員会は長時間に

家庭・学校生活に目を向け、今
をいかに生きていくか、未来を
いかに生きていくかという問
いかけをしている作品が多かつ
た点が今回の特徴で、本コンク
ールの成果として表れていると
思います。また、受賞作品は
じめ応募作品は年々高いレベル
になってきています。

今回応募された作品は、広く
社会に目を向けてテーマを見出
しているものが多く、その中で
小学生も中学生も高校生も、そ
れぞれが生きる価値を探ってい
るということが、素晴らしいこ
とであると感じました。

11月9日に 贈呈式と朗読会

美悼賞から入選までの入賞者
が集まる贈呈式と、入賞者、選
考委員らによる朗読会を次のと
おり開きます。

第6回若い芽のボエム贈呈式

日時 11月9日 午後1時～1
時40分 会場 前橋文学館

朗読会

日時 11月9日 午後1時40分
～3時30分 会場 前橋文学館
内容 入賞者と選考委員・推薦
委員、一般参加希望者による詩
の朗読

問い合わせは生涯学習課

890 5825へ。